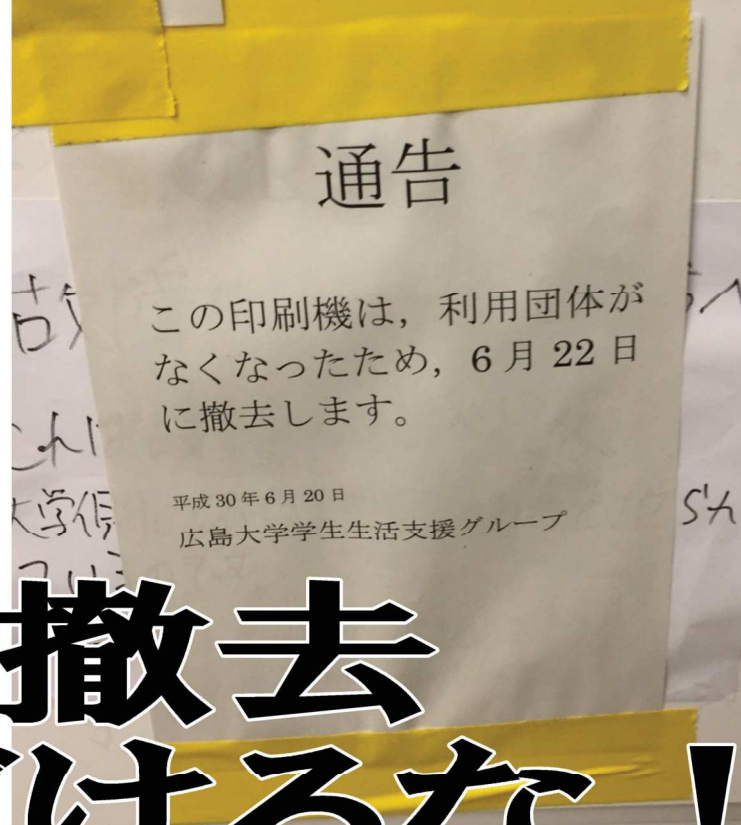


誰のためにやったのか！？



印刷機撤去 ふざけるな！

理由も言わず撤去！

文化サークル連合の印刷機が撤去されました！ 実費さえ払えば誰でも利用できる印刷機でした。今年利用できた4カ月ほどで、様々なサークルが合計**10万枚以上印刷されてきた実績**があったにも関わらず、印刷機にべたべたはられていた「通告」には「**利用団体がなくなったため**」と書いてあり、実際に撤去されました。その「通告」も20日の遅い時間にはられ、22日の10時に撤去という、**学生側に伝える気などないものでした。**

当然、どれくらい利用されていたかなど、何の調査も行われていません。撤去理由を電話で質問しても、学活Gの畠堀職員は「説明する必要はない」「話すことはないので切ります」と何の説明もしませんでした。

ゆかたまつり前になぜ？

撤去の**タイミングも最悪**です。いまは7月8日にゆかたまつりを控え、その準備に印刷物が多くなる時期。文化サークル連合の印刷機だけでなく、文化サークル団体連

合の印刷機もありますが、一台だけでは間に合わないとき、備品の補充が間に合わないときは多々あります。加えて、他の印刷機には突如学活Gによって暗証番号が設定され、一部のサークルしか印刷機を利用できなくなりました。暗証番号は外部に絶対に漏らすなと言われていたそうです。知らされなかったサークルはもう利用するなということでしょう。

こうした暗証番号の設定も、サークル側と相談して決められたことではなく、**すべて学活Gの独断**で行われています。

理由も言えない、使えないサークルも出てくる、おまけにゆかたまつり前。いったい誰のための印刷機撤去・利用制限なのでしょう？

すべて独断。近年の広大

こうした独断は、サークルのことについてだけではありません。**あらゆる部面で独断的に進められています。**

先生たちにまず攻撃の矛先が向かい、年俸制度、教員の評価制度であるA-KPI、学術院への一括の異動などが

広島大学学生自治会

委員長 森田寛隆

hirodai86@yahoo.co.jp

<http://hirodai86.blog.shinobi.jp/>



行われました。そして、**チーム制も55%の学生の反対がありながらも強行**。教員のためでも、学生のためでもない制度変更がここ数年で矢継ぎ早に行われています。

私たちはチーム制撤廃を訴えていますが、大学側は「まだ導入されたばかり（古澤副学長など）」と言い、疲弊する学生・教員の姿をなんとも思っていないようです。**学生のみならず、教員に対しても「黙って従え」というのが今の大学の姿です。**

「黙って従え」打ち破ろう

学生・教員に「黙って従え」。これは「日大の危険タックル事件」と重なります。内田監督は日大アメフト部内でも、教員たちに対しても絶大な権力をもち、学生も教員も黙らせていたといいます。

しかし、事件の後だったとは言え、**当該選手の告発によって、日大の内田支配は崩れ、学生も教員も声を上げ始めました。支配は、声をあげ全面的に告発する人が孤立しなければ、あっという間に崩れ去ります。**

だからこそ改憲・戦争反対！

私たちは**改憲・戦争に絶対反対**です。大学改革とともに、戦争に向けた体制は、このような「黙って従え」という在り方を、一大学などという規模に留まらず、**全国レベルで当たり前にするからです。**

「改憲・軍備は国を守るために必要だ」と言い、私たちに**対し様々な義務を強調する政治家は、決して戦場に行くようなことはありません。**彼らは、平和公園にある「学徒動員の碑」にあるように、「黙って従う」ように仕向けた、**多くの学生を強制的に働かせることで莫大な利益を得るのみです。**

ブラック企業が存在できるのも「黙って従う」ことがスタンダードになっているからというだけで、本来は労働者側が納得しなければ、1秒たりとも残業などできないのです（労働基準法36条）。

団結して声をあげよう！

私たちは学生自治会を、「黙って従う」ことを拒否し、**声をあげようとする人を絶対に孤立させず、ともに団結して闘う組織として発展させたいと思います。**

印刷機撤去は、単に理不尽だけでなく、**大学側が大学を運営する能力が、著しく低下していることを示しています。**私たち学生自身が、彼らにとってかわるべきときは近い。団結して声をあげましょう！

独断的に進められた 広島大学・近年の歩み

チーム制導入（2015～）

広大で学生・教員ともに嫌われている制度ナンバーワン。180分は誰も集中力が続かない。一日休めば2回分も授業がうけられないことに。留学などしやすくなるというが、チーム期間に留学するプランなどないという話も。

本格導入前に学生アンケートで55%が反対。各所で学生から反対意見を受けているにもかかわらず、授業のチーム化はむしろ推し進められている。

A-KPI導入（2015～）

教員に対する評価制度。理系も文系も同じ尺度（満点で世界ランキング100位入りらしい）ではかられ、文系が不利とされる。

多くの教員が反対。一時期他大の教員からも「広大のアレ」などと呼ばれ話題になった。当初はこのA-KPIの評価は教員の賃金などに影響はない、と言われていたが、最近は話が変わって、評価と賃金を連動させるようにされたらしい。

学術院導入（2016～）

教員を学部別の所属ではなく。一括して学術院というところに所属させた。教授会自治の破壊と一体。

導入当初は教員の同意も取らないで無理やり異動させたとか。学術院の中で、教員の専門分野ごと、ユニットに区分けされていくが、分野が被った場合にどちらかが辞めさせられるなど、大学の都合で理不尽な扱いをうけるのではないかと話題になった。

それぞれの専門分野のこともよくわからないくせに、無理やりまとめようとされていることも非常に不評。

予算削減（2016?～）

広大の業務全体に毎年7%の予算削減が課されているとのこと。毎年とのことなので、よほどのことがない限り増やされる話にはならないだろう。教員や職員の賃金も毎年2%など削減となった。

印刷機の撤去やサークルの助成が少ないのもこういったところに起因するだろう。学生の課外活動や研究活動の支援よりお金が大事、というわけである。



…アメフト部の危険タックル問題も、非常勤講師の大量解雇問題も、大学側の説明が不十分であることに共通点が見られる。タックル問題について、内田氏も大学も世間の納得いく説明をほとんどしていない。同様に解雇問題でも、やはり十分な説明が尽くされぬまま「幕引き」を図ろうとしてるように見える。危険タックルを命じられた学生も、非常勤講師も「組織の中では使い捨ての駒のようなもの」と捉えているように見受けられる。

…非常勤講師の解雇をめぐる問題は、法廷の場に舞台を移すことになりそうだ。両者の歩み寄りが見られる日は来るのだろうか。

「日大・解雇された非常勤講師が
ついに大学を提訴へ」
（現代ビジネス 6月22日付）